

天理バドミントンの日（利用について）

天理大学体育学部総合体育館（サブアリーナ）使用にあたり**注意事項を遵守**する上で活動を認める

参加にあたり、以下の3つが条件になります。一つでも当てはまる人の参加はできません。

- ①当日までの2週間に37.5度以上の発熱がないこと
- ②「三密」状態のイベント集会や飲み会に参加していないこと
- ③当日の体調に異常（発熱・味覚障害等）がないこと

注意：

1. マスク着用で来館し、入館時に必ず手指の消毒を行う。
2. 更衣室入室の上限は5名とする。シャワーの使用は禁止とする。
3. フロアに入る前に体温を測る。
4. 参加者の氏名と電話番号を名簿に記入する。
5. トイレ使用については、体育館の注意事項に従う。
6. 給水装置の使用は禁止とする。熱中症対策に必要な給水を用意し他人と共有しない。
7. 休息時はフィジカルディスタンス（最低1m）を確保して、マスクを着用する。
8. フロアの換気は30分～1時間に一度は行う。
9. 使用後は汗や唾液の飛沫が付着する可能性があるため必ずモップをかける。
10. 器具や用具は使用後に消毒を行う。
11. バドミントンの活動は、日本バドミントン協会の「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン」（令和2年6月3日）に従う。

1-6. 感染症拡大防止と予防（11.同バドミントン活動ガイドラインより抜粋）

（1）手洗い

石鹸を使って、30秒以上洗う（手指消毒液も有効）

（2）換気

ウイルスが滞留しないように換気を行う

（3）咳エチケット

咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえる

（4）3密（密集、密接、密閉）を回避する

不特定多数の人が集まる場所（特に換気の悪い場所）は感染リスクが高まります

（5）口・鼻・目を不用意に触らない

接触感染のリスクが高まります

（6）マスクの着用

移動時や会話をする時などは、正しく着用する。感染拡大予防にも効果あり。マスクをしているから新型コロナウイルスに感染しないわけではありません。マスク着用を過信しない

（7）フィジカルディスタンスの確保

人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける

（8）大きな声をださない

飛沫感染のリスクが高まります

（9）健康状態・行動の記録

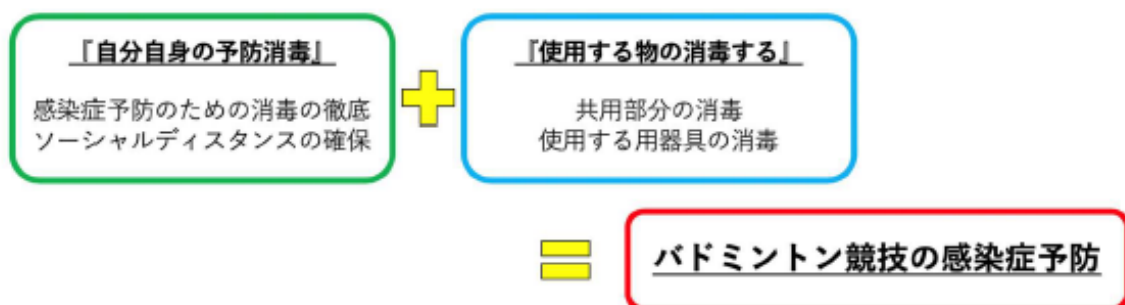
毎朝検温し、健康記録をとる。発熱や疑わしい時は、無理せずに自宅待機する。また、感染者発生時に備えて行動記録をとっておく

2-3. バドミントン競技において注意すること

バドミントンはシャトルを介して相手とラリーを行うスポーツです。そのため、シャトル・ネット等の共用で使用する部分からの感染に注意が必要です。またダブルスの練習・試合の時には接近する場面が発生します。

バドミントン競技再開にあたって感染拡大防止のための消毒は、『使用する物の消毒』と『自分自身の予防消毒』を意識して行うようにしてください。

- ネット付近でのプレー（ヘアピンショットなど）は、距離感が近くなるので、注意する。一律禁止とはしないが、運動強度が高く飛沫感染のリスクがある場合には、練習メニューを考慮する。
- ダブルスでは、パートナーと接近する場面があるので、注意する。プレー間にインターバルを設けて消毒するなどの配慮をする。また、コート内での会話や接触は避け、コート外でマスク着用や消毒をした上で行う。
- シャトルの受け渡しの際にラケットを使用して手を極力使わないようにし、シャトルやシャトルに触れた手を顔に近づけないようにする。
- シャトルは消毒が困難なため、複数の者が同じシャトルを使用することを避けるようにする。
- ノックやシャトルおきなど不特定多数の人が触ったものを利用する際、ノックを行う人はビニール手袋等を使用するなどの対策を行う。
- 汗は床などに落とさずタオルを使用し拭きとる。
- 床の汗は、モップ等で拭きとる（自分のタオルを使用して拭かない）。
- 練習の準備を行う際、ネットやポストなどの備品を消毒し、最小人数で行う（片づけの際も同様）。
- 練習中に使用するタオルやコップ等の共通利用や水分補給のドリンクタンク等の利用はせず、必ず一人一人が個人の物を準備し使用する。
- ラケットやシューズなどの道具は自分専用の物を準備する。やむを得ず共用の物を使用する時は、使用前後に消毒する。
- 使用した各自の着衣やゴミは必ずビニール袋等で封をしてそれぞれが個人で持ち帰る。



バドミントン活動時のチェックリスト

活動前	
<input type="checkbox"/>	練習施設までのマスク着用を徹底する
<input type="checkbox"/>	練習前に検温を行い、体調に不安のないことを確認の上、指導者に報告をする (体調は個人差があります。無理に参加をしないこと)
<input type="checkbox"/>	参加者全員の体調を確認してから実施する(発熱者や体調不良者は練習に参加させない)
<input type="checkbox"/>	ネットやポストなど設備の消毒を行い、最小人数で準備を行う
<input type="checkbox"/>	タオルやドリンクは個人のもを用意し、各種用品の消毒を行う
<input type="checkbox"/>	換気を行い、換気の行うタイミングを決定・確認する
活動中	
<input type="checkbox"/>	練習時に過密になっていないか常に注意する
<input type="checkbox"/>	マスクはコート内練習以外ではなるべく着用する
<input type="checkbox"/>	ネットやポストなどの設備には触れない。
<input type="checkbox"/>	コートに入っていない時、人との間隔(フィジカルディスタンス)を維持する (ラケット2本で約1.3m、3本で約2m)
<input type="checkbox"/>	シャトルの受け渡しの際に手を極力使わない
<input type="checkbox"/>	シャトルを顔に近づけない
<input type="checkbox"/>	他人のタオルやドリンクなどには触らない
<input type="checkbox"/>	換気を定期的に行う
活動後	
<input type="checkbox"/>	ネットやポストなど設備の消毒を行い、最小人数で片づける
<input type="checkbox"/>	飲み残しの処理は適切場所で行うこと。(自宅に持ち帰るなどする)
<input type="checkbox"/>	帰宅経路中のマスク着用を徹底する
<input type="checkbox"/>	参加者の氏名・連絡先・体調報告を1ヶ月保管する

※指導者の方は、感染拡大防止を第一に考え、活動を行ってください。

なお、参加人数によってはコートに入る人数を制限します(サブアリーナの最大定員48名、1コートの最大人数4人×3コート:12名)。